

Environmental Report



2026 環境保全の取り組み

～ 地球にも人にも優しい環境企業を目指して ～



HOKKAIDO

トヨタ自動車北海道株式会社

	ページ
1. 会社概要	・・・ 3
2. トップメッセージ	・・・ 4
3. 方針・プラン	・・・ 5
4. 取り組み体制	・・・ 6～ 7
5. 環境リスク低減の取り組み	・・・ 8～ 9
6. CO ₂ 低減の取り組み	・・・10～11
7. 資源循環の取り組み	・・・12
8. 自然・生物多様性保全の取り組み	・・・13
9. パフォーマンスデータ	・・・14～15

私たちトヨタ自動車北海道は

北海道 『北海道環境宣言』に賛同しています

北海道 『北海道グリーンビズ認定制度』において、

「優良な取組」部門 ランク3に登録されています

(環境マネジメントシステムの認証取得)

「創意あふれる取組」部門 3分野で認定されています

(地球を守る心・もったいない心・自然と共生する心)

「先進的な取組」部門 CO₂削減分野で認定されています

苫小牧市『ゼロカーボンいぶり@苫小牧』に参加しています

SDGsへの貢献



1.会社概要

■会社概況

設 立：1991年2月8日

資 本 金：200億円

株 主：トヨタ自動車株式会社 100%出資

事業内容：自動車部品の製造

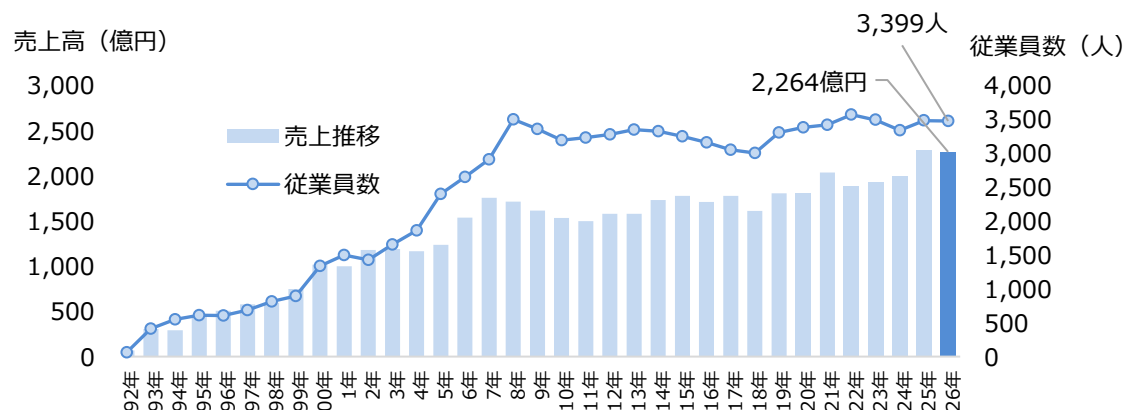
- ・CVT
- ・ハイブリッド トランスアクスル
- ・トランスファー
- ・鍛造部品

売 上 高：2,264億円 (2026年3月期)

用地面積：103万m² (約31万坪)

従 業 員：3,399人 (2026年8月1日現在)

■売上高/従業員数



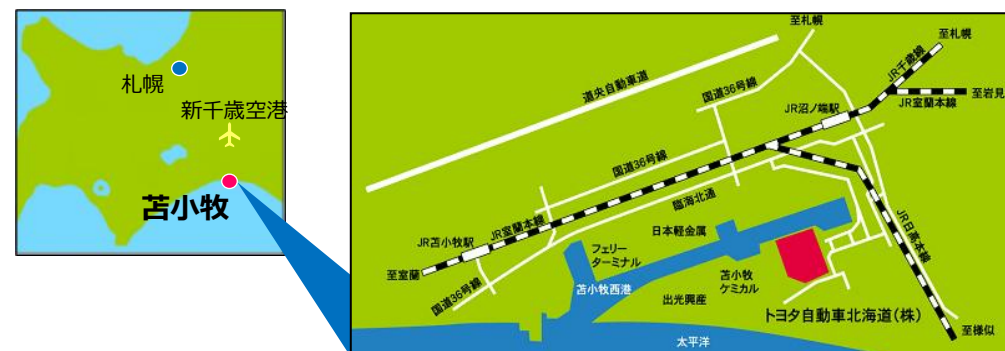
■工場レイアウト



- 1 第1工場 (ユニット加工・組付・熱処理)
- 2 第2工場 (ユニット加工・組付・鍛造)
- 3 第3工場 (プレス・ダイキャスト)
- 4 第4工場 (ユニット加工・組付・熱処理)
- 5 第5工場 (鍛造)
- 6 本館
- 7 2号館
- 8 原動力棟
- 9 信頼性試験棟
- 10 浄水場
- 11 保安センター
- 12 はすかっぱホール
- 13 トヨタの森
- 14 モノづくり技術センター
- 15 自然林
- 16 はまなすテラス (食堂)
- 17 太陽光発電

■所在地

〒059-1393 北海道苫小牧市字勇払 1 4 5 番 1



2. トップメッセージ

持続可能な社会の実現に向けて



環境保全統括者
取締役 桧垣 周司

日頃より、トヨタ自動車北海道（以下「当社」）の環境保全活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

地球環境を取り巻く状況は年々厳しさを増しており、企業に求められる役割も大きく変化しています。当社は、こうした変化を機会と捉え、環境への取り組みをこれまで以上に経営の中核に据え、実効性の高い活動へと進化させてまいります。会社方針においても、「自主的に環境保全活動に取り組み、環境との調和ある成長を目指す」と定めており、社員一人ひとりが自覚と責任を持って、「環境リスクの低減」「CO₂排出量の削減」「資源の循環利用」に全員参加で取り組んでいます。

本報告書では、当社の具体的な取り組みをご紹介します。皆様からのご意見を大切に、活動の質をさらに高め、地域社会とともに持続的な成長を実現してまいります。

3.方針・プラン

■トヨタ自動車北海道株式会社 環境方針

『地球にやさしい企業』として、一人ひとりが自覚と責任を持ち、環境保全活動に積極的に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）の目標・ターゲット達成に貢献します。

1. 地域社会とのコミュニケーションを大切にし、北海道の豊かな自然との共生と生物多様性を保つための活動を積極的に推進します。
2. 環境法令や協定、基準の遵守はもとより、地球環境の汚染予防及び継続的な改善を行い、地域のリーディングカンパニーを目指します。
3. 環境影響を最小化するために、目的・目標を定め積極的に取り組みます。
 - ①工場CO₂ゼロを目指し、日常改善・技術革新・再生可能エネルギー利用を推進します。
 - ②ゼロエミッションを維持し、循環型社会の形成を推進します。
 - ③生産活動の環境影響を評価し、環境負荷物質を低減します。



『トヨタ環境チャレンジ2050』

新たな地球温暖化防止の枠組みであるパリ協定が合意された2015年に、トヨタ自動車株式会社は3つのゼロへのチャレンジと3つのプラスへのチャレンジを発表しました。

当社はトヨタのものづくりの拠点として、この『トヨタ環境チャレンジ2050』を推進し、SDGsの達成へ貢献します。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

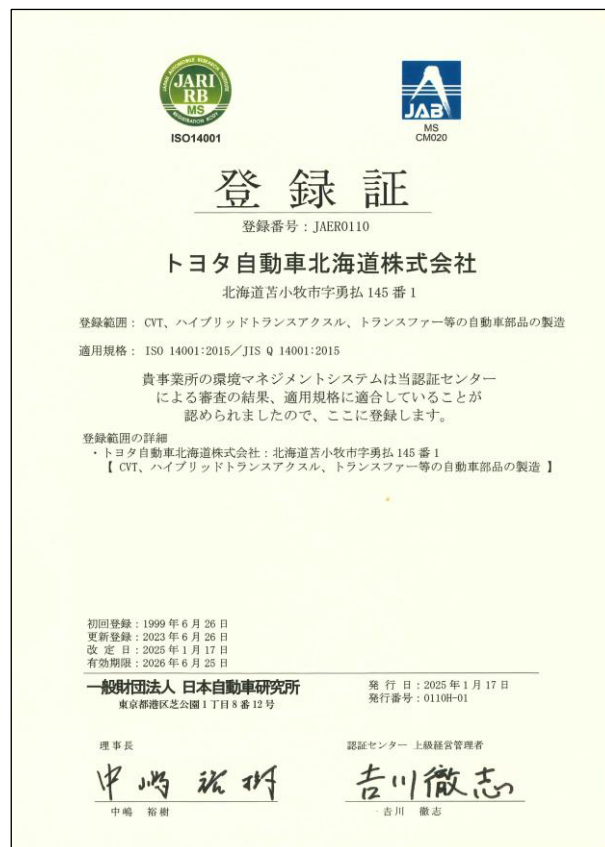
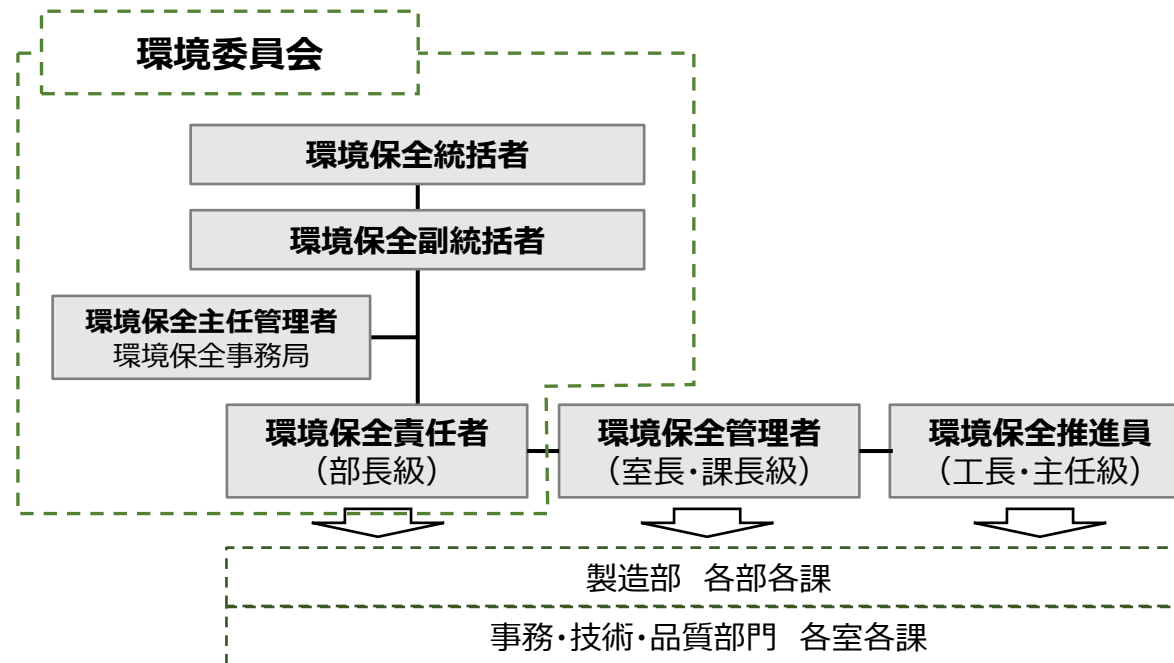
4. 取り組み体制



■ 環境保全推進体制

当社は環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001を1999年に認証取得しています。

環境保全活動は環境保全統括者を筆頭に表記の体制で推進し、ステークホルダーの皆様へ安心と信頼され続ける企業を目指します。



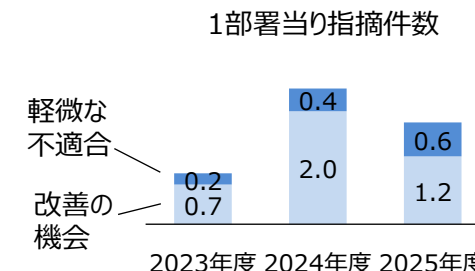
環境保全活動のPDCAが適切に機能しているかを確認するために、毎年外部審査と内部監査を実施しています。外部審査の指摘を社内で徹底的に対応・横展を実施し、定着状態を内部審査にて確認しています。



外部審査 (更新 2025年9月)



内部監査 (2026年3月)



4. 取り組み体制



■ 環境保全活動の力量維持

活動を行う上で必要な有資格者数を把握し、適宜資格取得を推進しています。また、新入社員の受け入れ時や各職位階層に応じた環境教育を実施し、環境保全活動に必要な力量の維持に努めています。

● 環境関連の有資格者数

資格名	必要数	有資格者数
公害防止管理者（水質）	2名	11名
“（大気）	2名	7名
“（ダイオキシン）	2名	3名
エネルギー管理士	3名	11名
環境計量士（濃度関係）	—	1名

● 環境教育

社員の職層ごとに目的に見合った環境教育を実施しています

職層別	教育内容
新入社員 準社員	社会人としての環境問題と環境保全活動の理解、取り組み
ステップアップ	担当エリアの環境ルールを理解と遵守、改善の実施
職制3級	担当チームの環境全般の知識と異常対応を含む実作業の指導・訓練、評価
職制2級	EMSの理解、環境問題の未然防止の取り組み 法令、社内規定項目の維持管理
職制1級	環境管理の仕組み、ルールの確実な運用指導 課全体の目標を踏まえた改善の企画と推進
基幹職	安全・品質・原価・生産活動への環境保全の織り込み 環境取り組みプランの理解と職場運営の実行

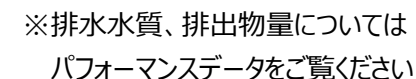
● 技術系の特定教育

技術系中心に申請・届出の必要な項目について、法的根拠から教育しています

実施教育名	3) 届出要件
概要/水質/大気施設	届出/調査の条件
振動/騒音施設	
電波/ダイオキシン施設	
土壌汚染対策法	



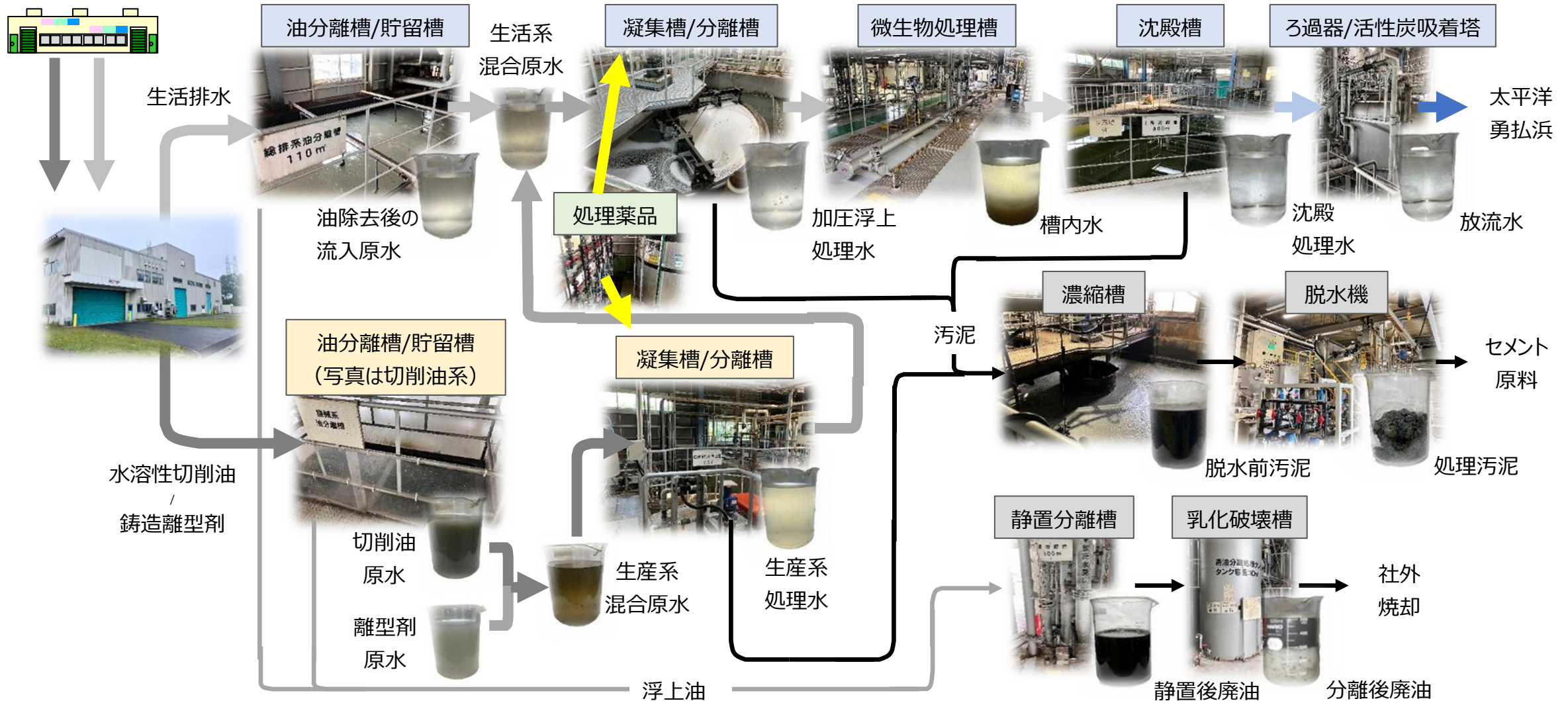
当社は、金属加工用の切削油及びアルミ鋳造用の離型剤の処理系統と、生活排水処理系統の2つを有しています。社外への放流水は、法令規制値並びに自治体との協定値を十分下回る水質で放流しており、測定及び計器による監視の他、第三者機関での測定も実施しています。また汚泥や廃油の減量化にも積極的に取り組んでいます。



5.環境リスク低減の取り組み

■排水処理場のご紹介

実際の処理行程と、排水がきれいになっていく流れをご紹介します。（一部の処理行程は割愛）



6.CO₂低減の取り組み

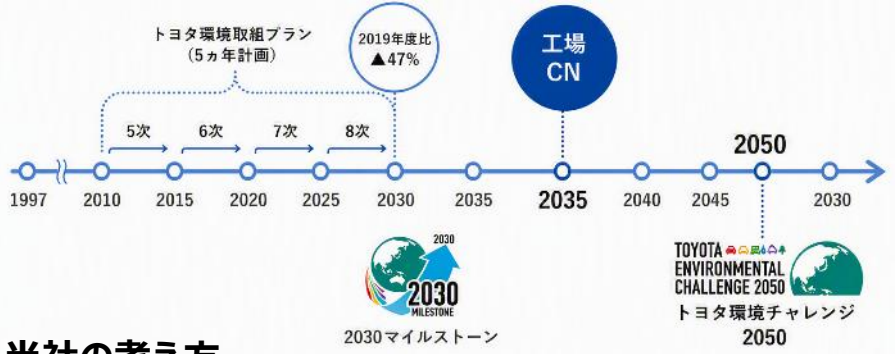


■カーボンニュートラルへの取り組み

●2035年カーボンニュートラル・2050年CO₂排出ゼロに向けて

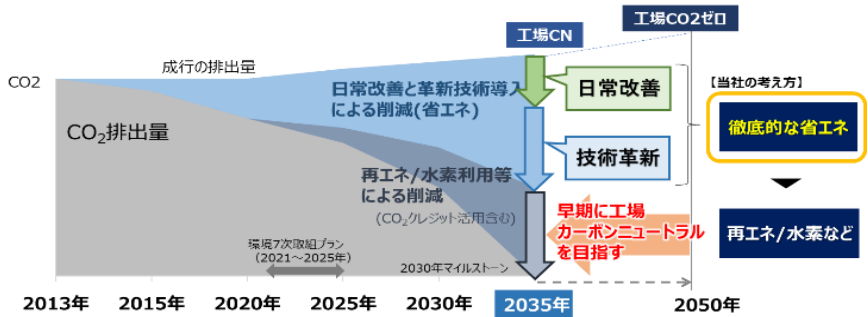
トヨタ自動車株式会社の「トヨタ環境チャレンジ2050」に基づき、長期的には2050年工場の生産におけるCO₂排出量をゼロ※1を、中期的には2035年工場の生産におけるCO₂排出量カーボンニュートラル（CN）を目指しています。

※1 6つのチャレンジの中の「工場CO₂ゼロチャレンジ」



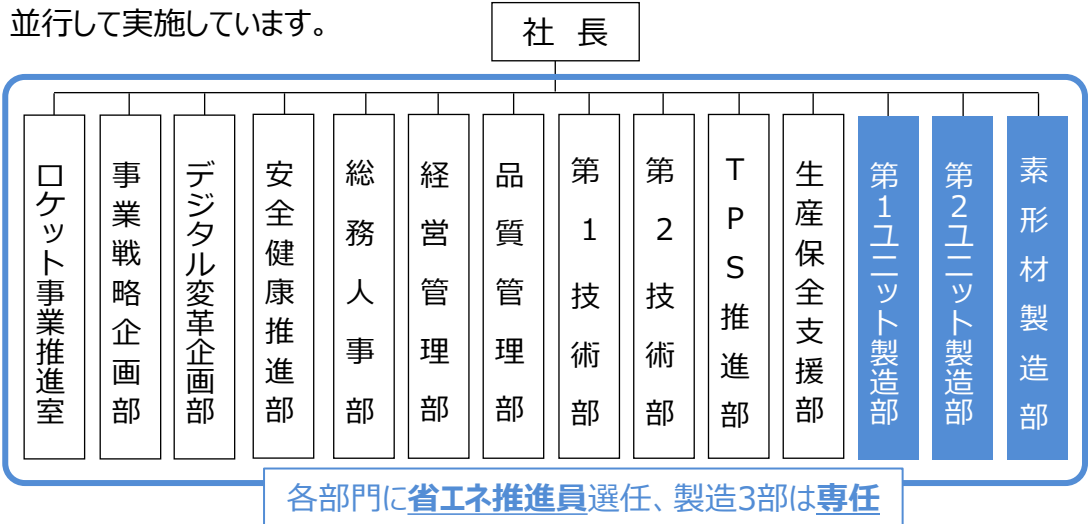
●当社の考え方

今後の生産増加によるCO₂排出量の増加も見込み、日常改善と技術革新による徹底的な省エネを進めたうえで、再生可能エネルギーの導入や水素利活用等により、カーボンニュートラルを達成する計画です。この考えのもと、「みんなの省エネ」を合言葉に徹底的な省エネ、特に全社で取り組むことができる日常改善に重点を置いて取り組んでいます。



●省エネ活動の体制と日常改善の切り口

全社省エネ活動は、以下の体制で実施しています。特にエネルギーをより多く使用する製造3部には「省エネ推進員」を専任し、活動の強力な推進と人材育成を並行して実施しています。



また、日常改善は「6つの心得」を着眼点にアイテムを発掘、一つ一つのCO₂削減効果は小さいですが、全社で地道な活動を実施しています。

心得	着眼点
1 ヤメル	なぜこの設備がいるのか？
2 トメル	動いているだけで働いていないぞ！
3 ナオス	故障で損をしていないか？
4 サゲル	なぜこれだけ要るのか？
5 ヒロウ	もったいない。何とか使えないか？
6 カエル	もっと安いエネルギーはないか？

6.CO₂低減の取り組み

■環境・省エネ提案表彰 新制度

日常的な改善行動が継続的に生まれる風土を醸成し、活動を推進、強化するため、環境・省エネ提案に対する新たな表彰制度を始めました。

●表彰制度概要

- ・創意くふう提案の中から、環境・省エネに関する案件を選定
- ・すでに表彰されている優秀賞以外の案件から選出
- ・アイデア性、効果等から選出し対象者全員に表彰

●期待される効果

- ・現場の気づきや行動を正しく評価、可視化
- ・日常的な改善行動が継続的に生まれる風土の醸成
- ・事例の共有/横展を通じて、活動の裾野拡大とレベル底上げ
- ・特定の人に依存せず、会社として継続的改善が定着した状態



表彰式の様子

環境・省エネ提案新制度

TOYOTA ENVIRONMENTAL CHALLENGE 2050

あなたの「いいかも」「やってみた」を評価する仕組みがあります

この表彰が目指すもの

- ・現場の工夫・改善が見える化
- ・改善が自然に続く職場
- ・良い事例を共有して全社でレベルアップ
- ・みんなで遊ぶ改善活動
- ・第8次環境取組プラン終了の2030年度まで継続

評価ってどうするの？

- ・現場への効果があるか
- ・現場で実行できるか
- ・続けられる工夫か

※ 創意くふう提案（優秀賞未満）の中から選定

お金とルールの話

- ・提案1件＝1,000円
- ・年間50件相当を評価
- ・翌年度への繰り越しなし
- ・1人通算10件まで
- ・10件達成で殿堂入り！

表彰内容（2025年度）

- ・環境・省エネ提案賞
- ・25名・34件を表彰
- ・環境負荷低減/ヒヤリ未然防止/ミスト抑制/省エネ改善（ほか）

最後に一言

- ・特別な取組でなくいい、日々の小さな行動が、未来をつります。今日の「これ、いいかも」を忘れないうちに、ぜひ、提案として残してください。

その気づき、眠らせていませんか？

環境・省エネ提案表彰はじめました

気づきを、行動へ。
行動を、会社の力へ。

安心の公式制度です

大切にしている3つの視点

現場の気づきが会社を変える

年間総額最大5万円

あなたを表彰します

たくさんの提案が評価されています

こんなテーマが対象です

「知っている」を
「している」に

全社展開ポスター

7.資源循環の取り組み

■廃棄物低減とリサイクル促進

●ゼロエミッション※1の継続

※1.ゼロエミッション：廃棄物の直接埋立ゼロ

廃棄物の低減とリサイクル促進のため、発生する廃棄物は41種類に分別を行っています。

工場では写真のような『エコステーション』を休憩室近くに設け、分別を徹底しています。この活動により分別された廃棄物は、24種類が直接リサイクルされ、それ以外の産業廃棄物は中間処理を経て再資源化され、直接埋立廃棄物ゼロを継続しています。

また、25年度より分別の社内啓発を目的とした“社内廃棄物教育”を始めており、リサイクルの第一歩は廃棄物の分別であることを社内に発信しています。

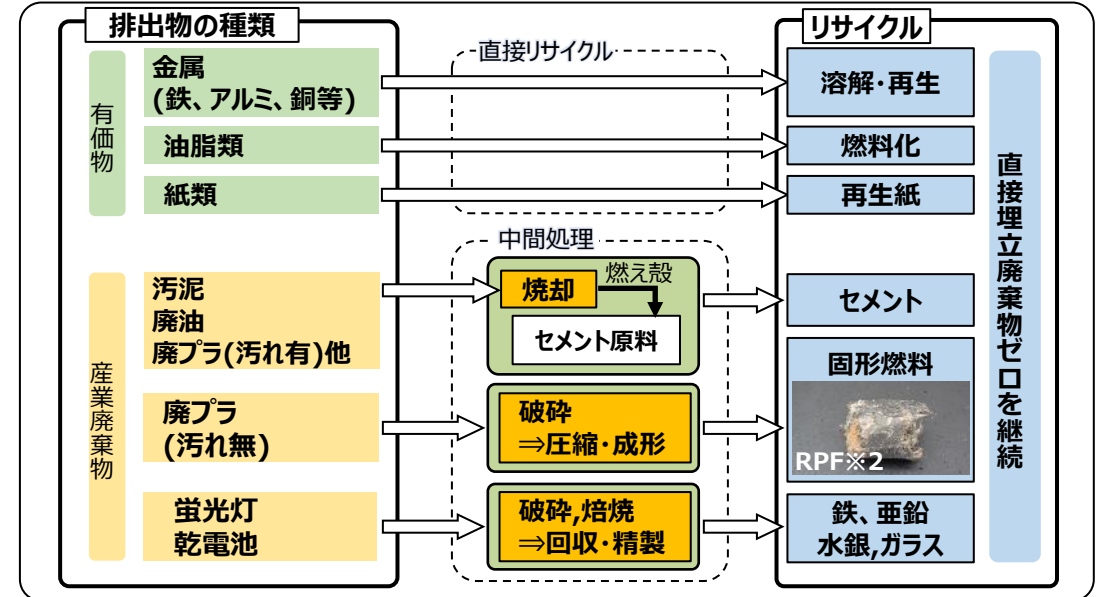


分別の社内啓発を目的に、
ESCOグループによる
“社内廃棄物教育”開始
2025年11月 プレ教育
2026年2月～ 全社展開

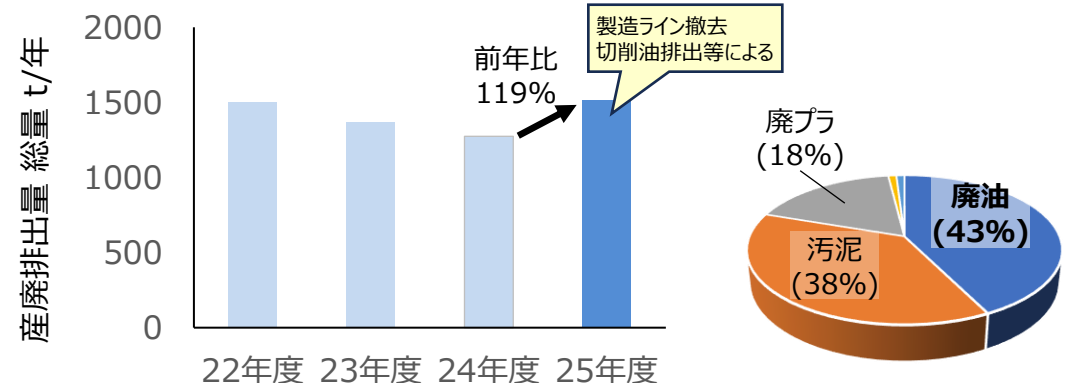


社内廃棄物教育（ESCOグループ）

●当社のリサイクルフロー



※2. RPF：古紙、プラスチック等を原料とした固形燃料
(Refuse derived paper and plastics densified Fuel)



産業廃棄物排出量の推移

25年度_産廃内訳

8.自然・生物多様性保全の取り組み

SDGsへの貢献



■全国みどりの工場大賞 経済産業大臣賞受賞



長年にわたる計画的な緑地整備や、環境省の自然共生サイト認定、カーボンニュートラルへの取り組みなどが評価され、北海道より「全国みどりの工場大賞 経済産業大臣賞」への応募推薦を受けました。2025年5月に申請を行い、同年12月に受賞が決定し、2026年1月23日に表彰を受けました。

■【地域共創】「桜並木一般公開&桜フォトコンテスト」



2026年5月2日(土)~5日(火)に、構内に咲くソメイヨシノ約350本の桜並木を地域の方に向けて一般公開を行い、600名以上の方がご来場されました。同日開催した桜フォトコンテストには全211件の応募があり、7名の方が受賞、記念品を贈呈いたしました。



フォトコンテスト最優秀賞作品



桜フォトコンテストの受賞作品はQRコードよりご覧いただけます。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

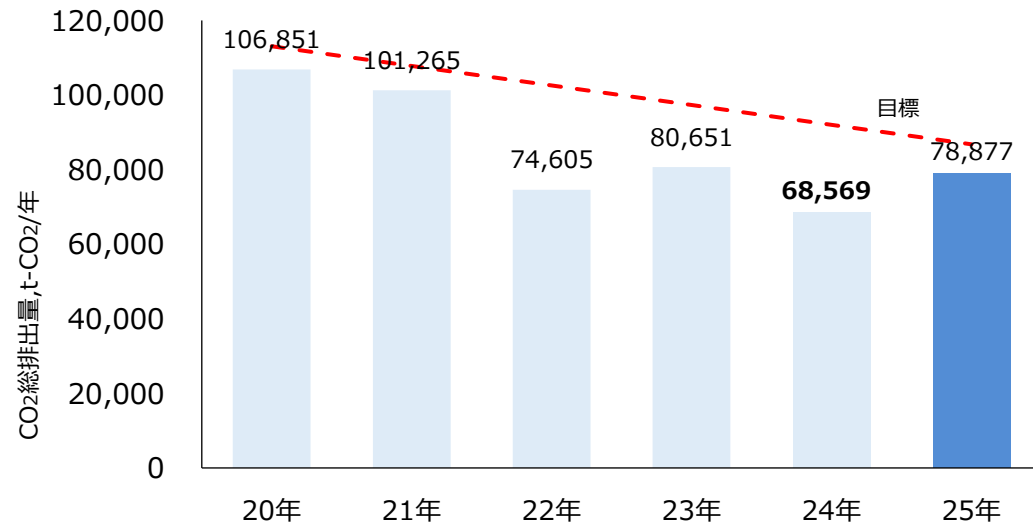
9. パフォーマンスデータ



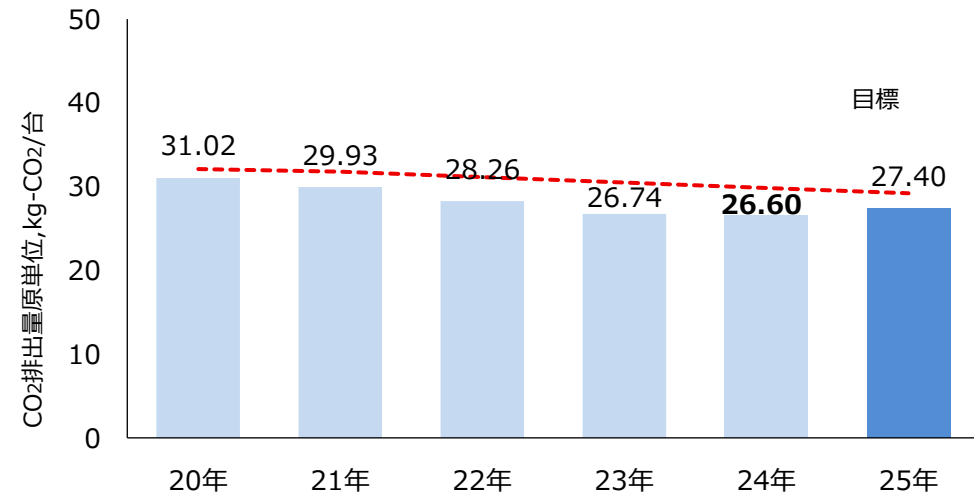
■ 2025年度 環境目標と実績

重点実施項目		目 標	実 績	[単位]	目標比	評価	期 間
環境リスク低減	異常・苦情	ゼロ	ゼロ	[件]	-	○	2025/4-2026/3
	CO2低減						
CO2低減	総排出量	86,776	78,877	[t-CO2]	91%	○	2025/1-2025/12
	CO2原単位	29.20	27.40	[kg-CO2/台]	94%	○	2025/4-2026/3
資源循環	産業廃棄物	1,340	1,516	[t]	113%	×	2025/4-2026/3

※産業廃棄物：ライン更新に伴う既設廃止設備からの廃油発生で廃油排出量増加



CO2排出量の推移（総排出量） 暦年1月～12月



CO2原単位の推移（1台生産当たりのCO2排出量）

9. パフォーマンスデータ



■ 環境測定結果

● 大気

項目	設備	法基準値	協定値	測定値最大	単位
窒素 酸化物 NOx	炉筒煙管ボイラ	150	120	108	ppm
	小型貫流ボイラ	150	—	35	
	ガスエンジン	600	—	180	
	ガスタービン	70	—	53	
	ガス浸炭炉	180	140	140	
	アルミ溶解炉	180	140	140	
ばいじん	炉筒煙管ボイラ	0.25	0.15	0.02	g/m ³ _N
	小型貫流ボイラ	0.10	—	0.02	
	ガスエンジン	0.05	—	0.003	
	ガスタービン	0.05	—	0.012	
	ガス浸炭炉	0.20	0.10	0.02	
	アルミ溶解炉	0.20	0.05	0.01	
硫黄 酸化物 SOx	炉筒煙管ボイラ	6.42	3	1.1	K値
	小型貫流ボイラ			0	
	ガスエンジン			0	
	ガスタービン			0.37	
	ガス浸炭炉			0.15	
	アルミ溶解炉			0.05	

● その他測定

ダイオキシン類（アルミ溶解炉排ガス）、臭気（敷地境界と排水）、地下水質

● 水質

項目	法基準値	協定値	自主基準値	測定値最大	単位
化学的酸素要求量 COD	160 (120)	25 (20)	20	16	mg/L
浮遊物質 SS	200 (150)	25 (20)	20	6	mg/L
pH	5~9	6~8	—	6.8~7.5	—
油分（鉱物油）	5	4	—	0	mg/L
大腸菌群数	3,000	—	—	0	個/cm ³
亜鉛	2	—	—	0.3	mg/L
鉄	10	—	—	0	mg/L
マンガン	10	—	—	0.2	mg/L
フッ素	15	—	—	0.00	mg/L
鉛	0.1	—	—	0.000	mg/L
砒素	0.1	—	—	0.02	mg/L

上記以外の項目は不検出 ()内は日平均

● 振動・騒音

項目	法基準値	協定値	測定値最大	単位
振動	なし	60	47	dB
騒音		60(昼)	53	

環境保全の取り組み 2026

～地球にも人にも優しい環境企業を目指して～



当社HP

<https://www.tmh.co.jp>



トヨタ自動車北海道株式会社
TOYOTA MOTOR HOKKAIDO, INC.

発行日：2026年8月

発行元：トヨタ自動車北海道株式会社
北海道苫小牧市字勇払145番1

お問合せ：総務室0144-57-2121

編集者：第1技術部 技術統括室 環境G